

ベストリーダー情報 (6月1日～6月30日)

一般書

順位	本の名前	作者
1	白鳥とコウモリ	東野 圭吾
2	ミカエルの鼓動	柚月 裕子
3	52ヘルツのクジラたち	町田 そのこ
4	葉の花の道(千成屋お吟2)	藤原 緋沙子
5	にべや往来記	村木 嵐

児童書

順位	本の名前	作者
1	ばあばにえがおをとどけてあげる	コーリン・アーヴェリス
2	もりの100かいだてのいえ いわいとしお	
3	わたしのワンピース	にしやまかやこ
4	あつかったらぬげばいい	ヨシタケシンスケ
5	うみの100かいだてのいえ いわいとしお	

図書館カレンダー
8月

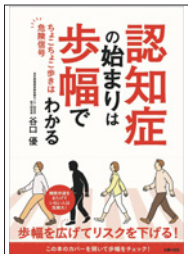
日	月	火	水	木	金	土
	*	△	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

×…全館休館
△…全館整理休館日

おすすめ図書

一般書

『認知症の始まりは歩幅でわかる』
谷口 優／著
主婦の友社 [2021.10]



認知症の早期発見のカギは「歩幅」にある。歩幅の広さと認知症の深い関係について解説し、歩き方の見直し方、大股歩きを身につける「ちょこつと筋トレ+体操」、認知症を予防する食生活などを紹介する。

児童書

『おしっこ、うんこはどこに行く?』
中川 ひろたか／作 カワチ レン／絵
アリス館 [2021.11]



どこの家にもトイレはあって、そこに住む誰もがおしっこやうんこをする。とんでもない量のそれらは、一体どこに行くんだろう? さあ、小さくなって、トイレのその先を探検しよう。生活の「なぜ?」にこたえる、楽しい絵本。



神戸大学大学院人文科学研究科
井上 舞

歴史探訪

明治時代の「氷上郡勸業会」について

シリーズ「ふるさとを見直そう」124

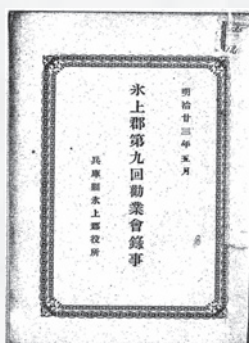
明治初期、全国各地で農事改良をめざすための組織が作られ、丹波市域でも「氷上郡勸業会」が創設されました。同会の明治22年、23年の議事録からは、郡内の村長や有力者など、50人あまりが会員であったことや、年に一度、総会を開いていたこと、当時の農業に関する議論や取り決めなどを知ることができます。当時、郡内で重要視されていたのは稲作でした。生産性を上げるために専門家を招いて指導を仰いだり、試験栽培用の田の設置、県外から種子を取り寄せるなどの取り組みを重ねていたようです。しかし、人々の熱意には差があり、また、支援の格差などの問題もあって、議論は紛糾していたようです。稲作の改良以外に、栽培に適した農作物や育成時期、虫害対策などについての情報共有も行われて

いました。

また、茶葉を栽培していた経験から、大量生産が可能で、緑茶よりも費用のかからない紅茶を製造し、海外への輸出品にすることも計画され、氷上郡の農業として発展させようとしていました。その後どうなったのかは不明です。

このほか、養蚕に関するところ、下流への土砂流出を避けるため、焼畑をしないようにする取り決め、獣医不足を補うために、仮免許でも開業できる仕組みを作るための建議書の提出など、様々な議題がありました。

明治政府は富国強兵・殖産興業政策として、農業の改良を推進していました。丹波市域でも新たな時代の農業のため、人々が奮闘していたのです。



「国会図書館デジタルコレクション」より

☎ 70・0819
関社会教育・文化財課(山南庁舎内)

